

# 令和4年度第3回

## 富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

### 議事録

<b>日 時</b>	令和5年3月3日（金）		開会	午後2時00分		
			閉会	午後4時00分		
<b>場 所</b>	富士見市立水子貝塚資料館					
<b>出席者</b>	委 員	阿部委員	岩村委員	佐々木委員	大島委員	佐々木委員
		○	○	○	○	○
		井上委員	鈴木委員	古澤委員		
		○	○	○		
	オブザーバー	埼玉県教育局文化資源課 尾崎主事				
事務局	水子貝塚資料館 和田、隈本、齊藤					
<b>公開・非公開</b>	公開（傍聴者なし）					
<b>議 題</b>	1 開会 2 議題 (1) 史跡水子貝塚保存活用計画について (2) 史跡水子貝塚整備基本計画について 3 その他 4 閉会					

## 議 事 内 容

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 史跡水子貝塚保存活用計画について

委員長 事務局から説明を求める。

事務局 (資料に基づき説明)

委員長 質疑等があれば伺いたい。

委 員 活用の部分で、学術に関するものが弱いのではないか。

事務局 史跡整備後に発掘調査を実施しておらず、貝塚を含め研究が進んでいないことが課題である。

委 員 貝塚の史跡なので、植物考古学も良いが貝塚そのものの研究が必要である。

委 員 資料館友の会土器づくり部会の活動は価値を高める。研究に取り入れることはできないのか。

事務局 実際にエゴマや繊維を入れた土器づくりもしているが、そこから研究に結びつけることが難しい。

委 員 市民とともに研究を進めることは大事で、蓄積した成果を報告することは市民への還元にもつながる。

土器づくりは、続いていると土器づくりを楽しむ人と、研究したい人に分かれてくる。そうした意味で今後のあり方を考えていくとよい。今はどこも世代交代が課題になっているが、刺激の与え方で活動内容も変わってくる。

委 員 資料館は、友の会土器づくり部会とからむしの会とどのように関わっているのか。

事務局 基本的には自主活動である。資料館から事業協力や試作等の依頼はするが、共同研究までは至っていないのが現状である。

委 員 会の活動支援だけでなく研究も資料館が共同で行うことに意味がある。新潟県の笹山遺跡では市民とボランティアと一緒に調査しているし、西東京市の下野谷遺跡では土器の圧痕クラブをつくり、市民が部員となって活動している。資料館友の会土器づくり部会とからむしの会は、歴史があるので資料館と連携して、広報・アピールをしていった方がよい。

委 員 水子貝塚公園は、都市公園としての価値を持っている。一方で縄文時代の景観を再現する史跡公園が本来の目的であり本質的価値である。縄文時代の森は、本来はもっと野生的であるはずがここはきれいに整備されすぎている印象である。高木を残し、低木を切り、見栄えと歩きやすいことを現代人は求めるが、縄文の森ははたしてそうなのか。現代で復元するとしたらどういう基準で整理し残していくか明確な指針を決めないといけない。難しいことだが、放っておくと都市公園の中にサンプルが残るだけになる。

委 員 イメージする縄文の森を復元すると、害虫なども出る所以周辺は嫌がるし、全部戻すというのは無謀である。良いところは残し、変えるところは変え、散歩して気持ち良い環境は残す。

事務局 このあたり一帯は、かつては畑で水子貝塚公園は人工林である。黒浜貝塚のように斜面林をそのまま生かすことはできない。縄文の森をどう復元していくのかが一番難しいところなので、整備基

- 本計画の策定の際にどうするか立案したい
- 委員 縄文時代の森は縄文人が管理していた。日当たりの良い環境で、若い木が多く太い木は少ない。水子貝塚公園は、高木ばかりの暗い森なので違和感がある。例えば、クリは材をとるために管理(枝打ちなど)をして電柱のように育てていた。現代でやるとなると森を育てる会みたいなものがないと継続は不可能で、職員だけでは面倒を見切れない。縄文の森については、少しずつ勉強しながらイメージを具体化し、継続的に観察し仕組みを作る。その仕組みがないため各地で復元が不可能になってしまっている。
- 委員 復元することにどれくらいの意味があるのか。どこかに焦点を置いて興味のない人にも利用してもらえるように工夫していく必要がある。例えば、秋に木の実を採集して使うなど、教育資源の森として育てるのもよいのではないか。
- 委員 ゾーニングしてもよいかもしれない。たとえば、不要な樹木を石斧で伐採する、一角だけ縄文風の森にするなど、人が手を入れるところと入れないところを分けて比較してみるというのも一案である。いずれにしても長期間継続するためには市民の協力が必要である。
- 事務局 市民との協働による管理は、具体的な計画を策定する際に可能かどうかも含め検討していく。
- 委員 縄文人と同じように樹木を伐採したりしながら少しずつ環境を整えていくのはどうか。10年かけて育てる史跡というのにも意義がある。
- 委員 森に手を加える部分と何もしない部分を作ってみたが、手を付けない部分からは関係ない樹木が生え、軌道修正が必要となり結局伐採したという事例もある。求めている自然環境は、樹木やそこで生息する昆虫などについて経過観察をする必要がある。市民の中に記録することを楽しむ人がいないとできない。
- 委員 御所野遺跡では、小学生も管理に加わり、枯れた樹木などのデータを記録している。そのデータをもとに大人たちは次に植栽する樹木を検討している。森の管理は資料館だけで行うことはむずかしいので、子どもを含む市民を巻き込んで取組んでいかなくてはいけない。
- 事務局 整備基本計画の際に方向性を定めたい。
- (2) 史跡水子貝塚整備基本計画について
- 委員長 事務局から説明を求める。
- 事務局 (資料に基づき説明)
- 委員長 質疑等があれば伺いたい。
- 委員 課題を25年間引きずっている。同じような25年間を過ごさないためにも、どのように活用し、そのためにどのような整備を行うのか市としての方針を明確にし、わくわくするようなキャッチフレーズが必要である。次の整備基本計画の中で議論し方針を立てる。
- (3) その他  
特になし

閉 会